



記者発表資料

平成 29 年 4 月 12 日
横浜開港資料館
(公財)横浜市ふるさと歴史財団

横浜開港資料館 平成 29 年度第 1 回企画展示

横浜・地図にない場所

－ 消えたものから見えてくる、ハマの近代

1. 展示会期など

会 期：平成 29 年 4 月 26 日(水)～平成 29 年 7 月 17 日(月・祝)
会 場：横浜開港資料館 新館 企画展示室
開館時間：9:30～17:00(入館は 16:30 まで)
5 月 27 日、6 月 2 日、6 月 7 日は 19:00 まで開館(入館は 18:30 まで)
観 覧 料：一般 200 円、小中学生 100 円
休 館 日：月曜日(但し、7 月 17 日は開館)
主 催：横浜開港資料館
共 催：横浜市教育委員会、横浜都市発展記念館
後 援：朝日新聞横浜総局、神奈川新聞社、産経新聞社横浜総局、東京新聞横浜支局、日本経済新聞社横浜支局、毎日新聞横浜支局、読売新聞横浜支局、NHK 横浜放送局、tvk
協 力：横浜市史資料室、横浜セントラルタウンフェスティバル実行委員会

2. 展示趣旨

さざ波のうち寄せる砂浜、市街を縦横に走る川、塩炊きの煙がたなびく塩田、沖合に現れる海水浴場。かつての横浜には、今では想像もつかないような場所がありました。

幕末から現代までの 160 年近くの間に、横浜市中心部は小さな村から大都市へと、大きな変貌を遂げました。その過程では、都市部の拡大だけでなく、災害の発生もあり、丘陵や海岸線の形、街の区画などが移りかわり、多くのものが姿を消しました。しかし、失われたものの足跡は、古い地図の中に残されています。

本展示では、幕末から昭和戦前期までの地図を中心に、消えた場所や地名の消えた理由をさぐりながら、近代横浜の歩みをふりかえります。

3. 展示構成

- | | |
|--------------------|--------------------------|
| 1 横浜村 今:山下町、中華街、元町 | 6 横浜監獄 今:住宅地 |
| 2 洲干弁天 今:新市庁舎建設予定地 | 7 本牧十二天海岸 今:横浜市中部水再生センター |
| 3 平沼塩田 今:横浜駅付近 | 8 吉田川・新吉田川 今:地下鉄線路、大通公園 |
| 4 元町百段 今:元町百段公園付近 | 9 入船町 今:みなとみらい |
| 5 魚市場 今:現市庁舎所在地 | 10 扇島海水浴場 今:扇島・JFE スチール |

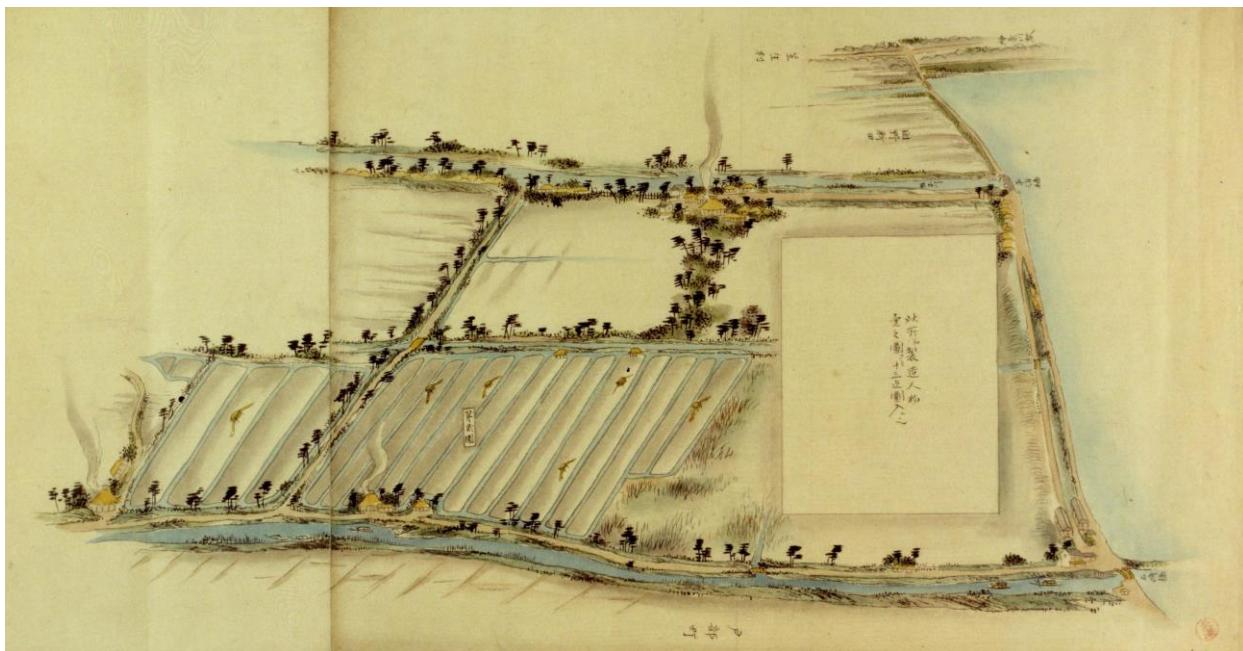
4. おもな展示資料（全展示数 約 120 点）

①本牧十二天神社 明治末から大正初期 当館蔵絵葉書



本牧十二天の海岸は、昭和 38（1963）年から始まった本牧ふ頭建設のため埋め立てられ、現在一帯は横浜市中部水再生センターとなっている。本牧十二天は本牧本郷村の鎮守で、幕末、外国人遊歩新道の支道が通じたため、潮干狩りや海水浴を楽しめる風光明媚な場所として、外国人にも親しまれた。第 2 次大戦中に被災した上、戦後はこの地域一帯が米軍に接収されたため、神社は本牧和田に移転した。

② 平沼塩田絵図「製塩井メ粕図解」 国文学研究資料館蔵 26cm × 36.5cm



現在の横浜駅付近の平沼では、明治の後半くらいまで塩づくりが行われていた。これは明治 16（1883）年の第 1 回水産博覧会に出品された資料の写し。塩田では細い溝がほられ、そこに海水をひきこんだ。塩田の所在地は現在の市立平沼小学校付近。

③大港横浜之図 橋本玉蘭斎貞秀画 [慶応4(1868)年] 当館蔵 67cm×101cm



開港後10年あまり後の横浜。中央の出島のようなものが開港場。白い部分が外国人居留地(現山下町一帯)、右手の薄茶色が日本人町。その右端の緑が洲干弁天で、開港以前から景勝地として知られていた。今はその面影はないが、弁天通りにその名を残す。2020年に新築予定の横浜市庁舎の建設予定地は旧洲干弁天所在地。地図右奥に平沼塩田の「シホヤ」の記載あり。

④絵入名所改正横浜新図 明治26(1893)年1月 著作兼発行者杉浦留吉 亀田威夫氏寄贈当館蔵 37cm×51cm



当時の横浜市域はほぼこの地図の範囲。中央が開港場で黄色の部分が外国人居留地。中央の曲がった突堤が波止場で、現在の象の鼻パークの原型。「公園」(現横浜公園)の右手に「ウオイチバ」とあるのが、現横浜市庁舎所在地。開港場の上部に伊勢佐木町などの閑外で、川や運河が縦横に走る。右手の海の中に築かれた鉄道線路を、煙を吐きながら汽車が横浜駅(現桜木町駅)に向かっている。「亀田藏書」とある右端の入り海は現在の横浜駅付近。

5. 展示関連事業

●展示担当者による展示解説

[日 時] 6月7日(水)18:00~ 30分程度を予定しております。

入館券をお持ちのうえ、新館2階企画展示室入口にお集まりください。

●展示関連出版物の販売『横浜・地図にない場所-消えたものから見えてくる、ハマの近代』

A4判、16頁 400円+税(予価)

●横浜シティガイド協会主催ウォーキング企画「横浜開港場ミステリー・ツアー」

展示で取り上げた「消えた場所」のいくつかをたずね歩きます。(ミニ講座・見学・街歩き)

[日 時] 6月3日(土)9:30 当館集合、13:00 桜木町駅現地解散(予定)

[定 員] 50名

[参加費] 500円(入館料・交通費は別途各自負担)

[申込み] 横浜シティガイド協会

お問合せ Tel:045-228-7678、Fax:045-228-7693

またはホームページ(<http://www.ycga.com/>)から

●連続講座「横浜・地図三昧」-地図で見る横浜の歩み

[日 程] 6月3日(土)第1回「横浜のさまざまな地図とその系譜」岡田直(横浜都市発展記念館)

6月10日(土)第2回「横浜・地図にない場所」伊藤泉美(横浜開港資料館)

6月17日(土)第3回「旧公団と火災保険図」百瀬敏夫(横浜市史資料室)

[時 間] 各回 14:00~16:00

[会 場] 横浜開港資料館 講堂

[受講料] 1,500円(一括)

[定 員] 80名(応募者多数の場合は抽選)

[申込方法] 往復はがきに、郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号を記入の上、下記住所にお送り下さい。はがきは1枚につき1名様のみの申込みです。

〒231-0021 横浜市中区日本大通3 横浜開港資料館 地図講座係

お問い合わせ:045-201-2100

[締 切] 5月19日(金)必着

●関連展示

横浜都市発展記念館企画展 「ようこそ! 横浜地図ワールドへーまちの移りかわりが見えてくる」

4月22日(土)~7月2日(日) 観覧料:一般 300円、小・中学生 150円

横浜市中区日本大通12 TEL:045-663-2424

横浜市史資料室 展示会 「昭和横浜の構想図・完成予想図ー過去に描いたヨコハマの未来ー」

7月15日(土)~9月10日(日) 入場無料

横浜市西区老松町1(横浜市中央図書館地下1階) TEL:045-251-3260

●横浜セントラルタウンフェスティバル Y158 参加プログラム

開催日の5月27日(土)、28日(日)および開港(開館)記念日の6月2日(金)は入館無料です。

お問合せ先			
横浜開港資料館	展示担当 副館長	伊藤 泉美 西川 武臣	TEL 045-201-2165 TEL 045-201-2100
*	画像データをご要望の場合は右へ、ご連絡ください。	横浜開港資料館 田中(広報)	TEL: 045-201-2100

* 画像データをご要望の場合は右へ、ご連絡ください。横浜開港資料館 田中(広報) TEL: 045-201-2100